

平成28年度おおい町総合教育会議 議事録（要旨）

1 会議概要

- (1) 開催日時 平成28年8月10日(水)
午後1時00分～午後2時21分
- (2) 開催場所 おおい町役場 2階 第1会議室
- (3) 出席者 中塚町長
中川教育長、中元教育長職務代理者、高木教育委員
藤原（正）教育委員
- (4) 欠席者 藤原（は）教育委員
- (5) 事務局 堀口学校教育課長、中本学校教育課長補佐、
奥生涯学習課長、新谷生涯学習課長補佐
- (6) 傍聴者 なし
- (7) 協議事項 ①名田庄小・中学校における給食方式について
②おおい町教育大綱の策定について
③大飯幼稚園の今後の取扱いについて
④その他

2 会議発言概要

(1) 開会

(2) あいさつ

《中塚町長》

第1回のおおい町総合教育会議を開催させていただきますけれども、取り巻く環境と言いますか、2020年には、指導要領が変更される中、アクティブラーニングであるとか、常日頃から子ども達の耐える力、体力の向上とか、ほんとに様々なことを考えていただかなければならないことに加えまして、地域の歴史文化を学びながら、地域への愛着を感じていただく教育も同時進行すべきと思っていますところであります。

皆様におかれましては、きたんのないご意見をお聞かせいただき、より良い教育行政となりますようお願いをすることでございます。本日は誠にありがとうございます。

3 協議事項

①名田庄小・中学校における給食方式の対応について

《資料に基づき事務局が説明》

《中塚町長》

ではただいまの、説明につきまして、意見質問等ございましたらよろしくお願ひします。

各委員から意見なし

《中塚町長》

教育長、何か要点説明をお願いします。

《中川教育長》

特別にセンター方式移行での意見は無かったが、心配されているのが、名田庄小・中学校は、時間を見計らって出てきますので、温かい給食ですが、センター方式になると、冷たいものを食べなくてはいけなくなるのではと言うのが一番大きいように思われました。その点については、PTA総会での説明は、最近ではよい食缶が出来ており、真空で2重になっている。60℃ぐらいの物を入れると、配送に係る時間で、5度前後ぐらい下がると説明をさせてもらいました。アンケート結果を踏まえての説明でしたので、温かさについては、ほぼ理解していただいたのではないかと思います。

アレルギーに対しても非常に心配されておられました。保護者の方からは、人数が多くなると、少し無理なのではないかという意見がありました。給食センターの方でもアレルギーの対策はしっかり出来ておりますし、施設のにもエリアをわけたり、使う物もすべて替えておりますので、アレルギーについては、給食センターでもしっかり出来ていると言うことは説明させていただきました。

あと、調理員の顔が見える等の意見もありましたが、給食センターでは、給食週間の時に調理員さんが各学校へ訪問し、いっしょに食べたりしており、心配しておられることに対しては、ある程度理解いただいたのではないかと思います。

また、給食センター方式に替わることによって出来ないのが、学校行事で、休日の行事も給食で対応し、弁当を持って来なくてよかったが、給食センター方式になると弁当が必要になることや、いい匂いがなくなる点のマイナス面も説明しました。

給食センターでは、大量に仕入れますので業務用になるが、名田庄小・中学校では、量が少ないので一般用になり、若干コストが変わると言う話もさせてもらいました。

マイナス面と覚えておられたアレルギーや温かさについては、説明した中である程度は理解していただけたのではないかと思います。総会后、気になる点について問わせがありましたら、学校を通じてでも、直接でもよろしいので言ってほしいとお願いましたが、その後、何もありません。

総会での意見は、確認的なものだったように思います。

また、名田庄小・中学校の給食で教育委員会が一番困っているのが、調理員の確保です。今後、調理員の確保が非常に難しいのではないかと考えております。

ただ保護者の方が一番心配されておられるアレルギーのことや冷めることについては、食缶や調理方法で解決できることはわかっていただいたのではないかと考えています。

《教育委員》

この前から何回も話していただいていると思いますので、進めていただくといいいのではないかなという気はしております。特に給食の統合に反対される方はそれほどおられないと思いますので。

《教育委員》

私は、作る側として、お弁当を毎日持たせることを思うと、給食センターであれ、学校であれ給食を出していただけることは有難いことであるので、特別問題はないのではないかと思います。

《中塚町長》

食中毒の対応ですけど、対応して手洗い場とかトイレを分けるとか、いろいろな施策を講じていると思うが、うちのセンターでは完璧に出来てますと言うことを説明しなければいけないと思うが、それは大丈夫なのか。

対応できていることについて、このような指導があつて、きちんと説明して、納得してもらえる資料を持っていないかならないのではないかな。

《教育委員》

今のセンターで、230食ほど増えるのですか。調理は出来るのですか。

《中川教育長》

能力は、1500食分あります。今618食調理しており、名田庄小・中学校給食分を併せて850食弱ほどになります。

《中塚町長》

給食センターへの統一について、皆様からさほど異論もないようですので、今後変更にあたりどういふことが必要になって、最短でいつからできるのか説明してください。

《事務局》

まず、名田庄中学校については、給食配送車からコンテナをおろせるように改修しなくてはなりません。名田庄小学校は改修済みです。また、その他必要な備品の購入等が必要となってきます。

そのような点を踏まえて、いつから切り替えができるのかは、今後の検討課題となります。

《中塚町長》

今後の進め方については、少なからず課題は生じていることは認識していただけたと思いますが、センター方式で統一していく部分については、ご異論はないものと認識しておりますので、今後詳細につきましては、現場の方とやり取りをしていきなが

ら、いずれにしても理解を得て進めていくと言うことでよろしいですか。

《教育委員》

全委員了解

《中塚町長》

それでは2点目、おおい町教育大綱の策定について、事務局より説明してください。

②おおい町教育大綱の策定について

《資料に基づき事務局が説明》

《中塚町長》

他の市町のと併せて資料のことをご案内していただいたのですが、それらとの比較対象というか、現時点ではあくまで大綱と言うことなので、細かく掘り下げずに他の市町もやっていると思うが、感覚的なものを少し説明願います。

《中川教育長》

嶺南地区の2市2町については、昨年度それぞれ策定されたが、各市町の総合計画的なものを持ってきているところと、それを基に細かくしているところと、いろいろです。

本町も総合計画は計画、大綱は大綱というわけにはいきませんので、計画を基に、大綱を作成、大綱を基に町の教育方策を作ります。毎年、教育方針・方策は作っていくこととなります。

《中塚町長》

では、皆様方からご意見を頂戴したいと思いますけれども、いかがでしょうか。

《教育委員》

大綱の中には、幼児教育について触れてはいないのですか。また、英語教育の強化が言われているのでそういうことも入れてはどうか。

大綱なので、これからの10年間にどのように教育が変わっていくかを入れていく必要があるのかと思います。

最初の町の3つの基本理念をどのようにして、学校教育の中に取り入れていくのか、生涯学習教育に取り入れ実現していくのがこの大綱ではないのかと思います。

それから、他の市では大綱の概要版がありますね、こういったものが一目でわかる、おおい町はこういう教育をしていくのがわかるのが一つあるといろんな方に説明できるのではないかと、文章の中に入れてしまうとわからない。他の市の概要版の教育大綱を見て、この様なのがあっていいのではないかと感じました。

《中塚町長》

逆に大綱で、総合的に記載し、毎年の運用規定の中で運用していく位置付けで考えていくのか。箇条書きがわかりやすいので抜粋してやっていくのか。これ以外の項目が出てきた場合に加除しにくい。また、目的が実現し、優先順位を変更しようとした場合も変更しにくい。実際の運営とどう連動させるかが大事であると感じている。

《中川教育長》

今の件で述べさせていただくと、この案を作成するにあたり、学校教育、社会教育ともに詳しく記載していましたが、具体的なことについては、次の段階のもので入れていこうかなと考えていました。たくさん入れだすと余計、大綱が大綱でなくなるのでこのような案にさせていただきました。

《中塚町長》

いずれにしても、総合計画が策定中であるので、それが出来てからという認識になるのかな。

《中川教育長》

総合計画ができあがった時点で、この修正を含めて検討をお願いすることとなります。

《中塚町長》

その時点で教育委委員の皆様方に、最終的に協議していただかなければならないということでご理解いただけましたでしょうか。

《教育委員》

全委員了承

《中塚町長》

次の協議事項3番目の「大飯幼稚園の今後の取扱いについて」事務局に説明をお願いします。

③「大飯幼稚園の今後の取扱いについて」

《資料に基づき事務局が説明》

《中塚町長》

平成24年度に休園したときに、議会でこの説明があったのを覚えておりますし、議員から再開する予定はないのかとの意見もあったようだが、議会全体として開園すべきであると言う意見で無かったように承知をしています。

ちなみに、開園してほしいと言う意見は、住民の方から無いとは聞いているが、特段こちらから聞いていることもないですね。

《教育長》

そういう意見は聞いておりません。

《中塚町長》

現在休園のままとなっているが、今後の取扱いとして廃止措置を取るのか、このまま休園していくのか方向性も含めてご意見をお願いしたいと思います。

《中川教育長》

今年度から、前の大島保育所が大島認定こども園、前の本郷保育園が本郷こども園になっています。佐分利保育園は子ども園の認定はされておりません。大島と本郷はこども園に認定されたことで、保育の部分と幼児教育が合体した園になっている。定員の中には、当然保育に該当する対象者と幼稚園に該当する対象者とがいます。

《中塚町長》

佐分利保育園の今後の予定はどうなっていますか。

《事務局》

平成31年末までにこども園の認定を目指しているということです。

《中川教育長》

平成32年から子ども園になる可能性があります。大きな課題はクリアできるのではないかと考えています。

《中塚町長》

大飯地区が全部そうなると、名田庄保育園をフォローアップしていくのかと言う状況になる。それと課題は、あくまでも保育園から認定こども園の申請をしていくということもあって、住民福祉課が担当している。幼児教育に係る認定こども園も、担当課の縦割りの障壁があるので、今後教育委員会として、指導監督を含めて、どうかかわりを持つのが大事ではないかと思うが、その辺はどのようになりますか。

《中川教育長》

そこまではまだですが、保育園が過渡期なので、変化しようとしている。それに併せて、教育委員会としても幼稚園については検討していかなければならないと考えています。

《中塚町長》

と言うような側面的な状況を含めて、大飯幼稚園をどうすべきかご意見を頂きたい。

《中川教育長》

教育委員会も大飯幼稚園の場所を放課後子ども教室で使っています。

《事務局》

半分は、住民福祉課の放課後児童クラブで使っています。

《中塚町長》

放課後児童クラブ・こども教室はニーズが高く、モデル事業として取り組んでいるが、好評ということかな。

《事務局》

去年と比較して格段に多くなりました。児童クラブに入れなかった受け皿になっている部分があります。ニーズに応じて提供しています。

《中川教育長》

名田庄の方も利用者が多いです。

《中塚町長》

幼児教育と親育ての部分も言わなければいけないと思う。

《教育委員》

前の教育委員会でも放課後児童クラブ等のことを話したが、住民福祉課と連携し同じ方向を向かないといけない。

《中塚町長》

そう言うところを統一しなければならない。

《中川教育長》

教育委員さんも、そういうことが最終的に小学校の子どもに影響し、それが中学校に影響してくるので小さい時から連携していかなければならないと言っておられます。

《中塚町長》

母子手帳を頂いた時から、教育は始まっているし、保育は始まっていると思っている。その中で問題行動を起こす親であったり、子どもであったり、認識できるはずであるが、そこが住民福祉、保健医療の分野から離れてしまう時期があって、学校教育であったりして、スムーズさが無くて、また一から調査をして対応しなければならない。理不尽なところがある。どう連携をして行くかが、今後の大綱とか運用の中で大事になってくると思うので、特に何かありましたらどうぞ。

《教育委員》

子どもをあずかるには、その中で子どもにいろんなことを教えていく場でなければいけない。昔地域で教えたようなことを教えなければならない。何でも受け入れて、自由勝手にさせていくのは教育ではないと思うし、こういう場所でも、住民福祉課と

学校教育課と一緒にあって、子育ての話ができるといいのかと思う。

《中塚町長》

かつて、家庭の三原則を作ったが、各家庭の価値観が違うので大変なことになる。たとえば小学校ぐらいの単位で、地域のルールを作る。それに基づいて生活の態度、物の考え方、親御さんへの逆PRを進めることが、地域教育にもつながるのでないかと思っている。

そういう視点を持つとよいのではないか。今はそれがばらばらになっている。町民、子供、親がばらばらで、いろんな意見をおっしゃって、全部に対応するのは無理である。ある程度公約数的なルールとか秩序を決めていかないと、個人を謳歌するのは結構であるが、集団になれば必ずルールは必要である。そこがあやふやになると、機能しなくなるのではないかと思っている。

集団の組織は一定のルールなり、教育方針が必要、そのようなことも考えていかなければならないと思います。そのような理解でよろしいでしょうか。

《教育委員》

全委員同意

《中塚町長》

他に何かありませんか。

それでは、大飯幼稚園の今後の在り方について、事務局の方から今考えていることはありますか。

《中川教育長》

保育園と幼稚園の定員が決まっており、簡単に増やしますと、保育園の雇用の問題も関わってくる。住民福祉課との絡みもありますので、そのようなことも頭に入れながら、3園がこども園になるであろう平成32年には、ある程度の方向性を見つけたかと思っている。

《中塚町長》

と言うことだそうです。廃園や休園を継続するにしても、摺合せを住民福祉課としなくてはいけないのではないか。

それをやったうえで、いままで大飯幼稚園で対応してきたことと、ほとんど変わらない状況になっているのでいけますとか、この部分は欠けてまだ積み残しの課題がありますなどの議論になると思うので詰めていただきたい。

そのようなことでよろしいか。

これにつきましても、機会を捕まえて、情報提供をしながら取り組むと言うことで対応させていただきたいよろしいですか。

《教育委員》
全委員了承

《中塚町長》
次に4番目のその他です。まず事務局の方から何かありますか。

《事務局》
こちら方からはありません。

《中塚町長》
皆様方からは何かありませんか。
せっきくの機会ですので、教育全般にわたる課題と何かお気づきの点がありましたらおっしゃっていただければありがたいと思います。最近このようなことが気になっているとか。
何かお感じのところがあれば、教えていただけませんか。

《教育委員》
今の子どもは、コミュニケーションが取れていない。取り方を知らない。人をたたいたり、ふざけたりすることで仲間を作っていくみたいなことがありまして、話をし、いろいろなルールの中でみんな仲良くやっていくようなコミュニケーションが取れない。
人との関わりが持てない子が増えている。そういう事を地域の中で、お母さん方にも教えていかなければならない。
このままでは、困りますよと言う話は、なかなかご理解が得られていない。昔の仲間意識、地域意識が変わってきています。
町長が言われる、そういう物を作っていくには、何から取り組んでいくのがよいのか、すごく難しく思います。

《中塚町長》
自分がやりたいことを仲間になんかさせるためには、コミュニケーションをとらないと出来ない。そういう意味でルールは必要。個人の価値観で生活している人たちが集まって地域社会を構築しているのだから、ルールは必要である。だとすれば、きちんとコミュニケーションをとらざるをえないことを感じてもらう必要がある。
まさに今言っていたことは、非常に重要なことだと思いますので、どう学んでもらうのか。

《教育委員》
学校等の枠にとらわれない放課後児童クラブ等は、そういうことを教えるチャンスである。その中で、子ども達に何を教えるかをはっきり決めて、仲間づくりとかルールを、高学年も低学年もいますので、教えていくのも子供達にはいい場所かもわかり

ませんね。

《中塚町長》

コミュニケーション能力を高める、大切さを知ってもらうためのツール、プログラムみたいなものを考える必要があるのかな。

《中川教育長》

今はどんな場でも、スポーツでも何でもそうですが、大人がいろいろ条件整備をし、子どもは参加するだけになっている。自分たちで楽しくするために何をしたらよいか見つけなくても条件整備をしてから参加するという形なので、それが一番問題かもしれない。

これをしなさいと言うとなかなかですが、この時間をみんなで楽しく過ごすことを考えよう、みたいになると、コミュニケーションがとれて、町長が言われたように、みんなを納得させないとそれができないことになるかもしれません。

《中塚町長》

私が子供会をやっていた時には、極力子ども達に何をしなければいけないかも含めて、築いてもらう機会にしたいと思っていた。

何も無いところでれば、どうすればいいか考えるがそういう機会がなくなっている。

《中川教育長》

物事を行うにあたり、怪我などをしないようにどうしても用心深くなっています。

《中塚町長》

自分で学んでいない。学ぶ機会を与えていない。良かれと思ってやっていることが、実は子育てにはなっていない視点を、今の親御さんたちに認識してもらう必要がある。

それでどんなことをやっていかなければならないのか、事務方でも考えてくださって、委員さんたちも次回の会合の時でもお出しいただきたいと思います。

本日は、4つの協議事項について協議いただきました。今後またあらためまして、2回、3回、大綱等の問題について協議する機会があると言う事ですので、事前に資料をお配りしながら、皆様方にもお考えいただいて、実のある会議が今後進みますようにご祈念申し上げながら、この会を閉じたいと思います。